



新羅神社(しらぎ神社)

古代からの港、福泊(旧名 韓泊)から八家川に沿って播磨の国府(こくふ)のあった、御国野(みくにの)町への約4kmの山裾の道は古くから主要な道でした。道の山側に木庭山古墳・丸山古墳・東山焼窯跡など種々の遺跡があります。

福泊から北北西、約2kmのところ、四郷町明田の集落があり、街道を東に約50m、入ったところに新羅神社があります。

又、この道は御国野町御着で最古の山陽道に合流し、市川のもと、小川里から砥堀や白国神社のある白国村を通り、書写山のふもと坂本へと続きます。

郷土の文化財シリーズには新羅国神社が以下のように記されています。

新羅神社

神功皇后は西征出発にあたり、麻生山に登り天明に及ぶ。よってこのあたりを暁田と称した。また、帰陣後、新羅の人々に葦原であったこの地を与え、明田(開墾)にさせたことから明田といい(三宅庄から転じたとの説もあり、地名の由来は定かではない)この新羅の人々が村の中央に社を建て皇后を祀ったことから新羅神社という。(『古跡便覧』や『巡覧図絵』では、異国(新羅)の皇子をこの地に置き、後にこの皇子を祀ったという)祭神は息長足姫命(神功皇后)、誉田別命、足仲彦命である。

福泊(ふくどまり) = 韓泊(からどまり)

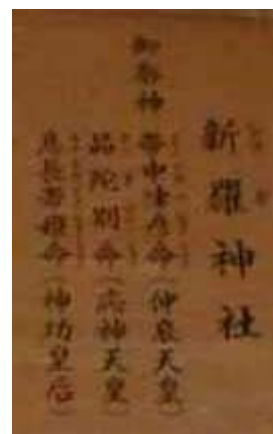
奈良時代、行基(ぎょうき)によって港が建設されたと伝えられている。

国分寺

御国野町国分寺にあります。国分尼寺も併設されていたようです。現在は跡地が保存されています。



新羅神社



参考図書

文化財見学シリーズ31 姫路市教育委員会
文化庁文化課(平成5年8月31日発行)

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
e-mail ryou@memenet.or.jp